

▼理事からのメッセージ▼

「富山県を貯蓄から投資へのロールモデルに」

尾口紘一

皆様、日頃から協会活動にご参加いただきありがとうございます。本メルマガでは弊社株式会社 Fan が取り組む事業の着眼点などについてお話しできればと思います。

近年、「貯蓄から資産形成」の機運がかつてないくらい高まっていると感じております。2024年からの新 NISA 制度スタートにより、金融機関での顧客争奪戦はいつそう激しくなるでしょう。

ですが、そのような状況の中で「資産運用の始め方が分からない」「商品の選び方が分からない」という方が多いのが現実です。そして、そこにこそ私たちアドバイザーの存在価値があると思います。お客さま一人ひとりの現状やご不安、ゴールを理解し、ライフプランを描き、一緒にゴールに向かって伴走する...そんな姿勢がより強く求められていると感じています。

現在の日本が変える課題を、資産運用の視点で改めて整理してみましょう。

まず、日本人の金融資産内訳の問題です。日本の家計の金融資産約 2,005 兆円のうち、約 54%を「現金・預金」が占めています。対して米国は金融資産約 115.5 兆ドル(約 1 京 2,983 兆円)のうち約 52%が「株式・投資信託」が占めます。家計の金融資産の構成比、特にリスク資産の割合の差が、日米の家計金融資産の差に直結していると言えます。

次に、物価高や円安といった社会の問題です。世界的な物価高、円安の状況にある中で、日本人の所得は上がらず、「老後 2,000 万円問題」など、お金に関する課題が山積みです。

このような課題を抱える日本において、弊社 Fan が本社を置く富山県にスポットを当てさせていただきます。

なんと、富山県は「一世帯あたりの貯蓄額」が全国 1 位なのです。

※総務省「家計調査 貯蓄・負債編」(2022 年調査)より

その反面、金融リテラシーは高いと言えず、各調査で以下の結果となっています。

- ・「金融リテラシー調査」正答率は全国 32 位
- ・「お金に関する長期計画を立てる人」は全国 44 位

※金融広報中央委員会「金融リテラシー調査」(2022 年)より

上記の結果にも関連しますが、

「貯蓄に占める有価証券の割合」は全国 15 位となっております。金融リテラシーが向上し、お金の長期計画を立てれるような状況になれば、貯蓄額 1 位の富山県は貯蓄に占める有価証券の割合も 1 位になれるのではないかと考えています。

また、政府の言う「貯蓄から投資へ」を実現するための土壌が整っており、ロールモデルとなる可能性があるのではないかと思います。

現在弊社は、ショッピングセンター含め富山県に 3 店舗を展開しており、毎月会場セミナーなども開催しております。金融リテラシーの向上に繋がるセミナーの企画、NISA や投資信託、積立投資といった資産運用アドバイスに加え、保険、住宅ローン、不動産、通信といった家計相談までを幅広くカバーすることで、富山県の金融リテラシーを向上し、「貯蓄から投資へ」のロールモデルを作っていきます。

そしてそのロールモデルをもって、日本全体に活かしていければと思います。